

# 東京藝術大学 奏楽堂 モーニング・コンサート Morning Concert

## 第2回

2026年5月28日(木)

指揮：山下一史

藝大フィルハーモニア管弦楽団

半田琉璃（ピアノ）

ショスタコーヴィチ：ピアノ、トランペットと弦楽オーケストラのための協奏曲第1番 ハ短調 作品35

ソロトランペット：高橋賢一郎

清水遥子（ヴァイオリン）

バルトーク：ヴァイオリン協奏曲第2番 Sz.112

19：45開演 東京藝術大学音楽学部第6ホール

主催：東京藝術大学音楽学部・東京藝術大学演奏芸術センター

## ◆半田珠璃（4年：ピアノ）HANDA Juri

ショスタコーヴィチ：ピアノ、トランペットと弦楽オーケストラのための協奏曲第1番 八短調 作品35（演奏時間約22分）

ソロトランペット：高橋賢一郎

2004年、広島に生まれ、2歳よりピアノを始める。  
第5回パデレフスキ国際ピアノコンクール ヤングアーティスト部門第3位。  
第6回トカチエフスキ国際ピアノコンクール ヤングアーティスト部門第2位。  
第75回学生音楽コンクール高校生の部奨励賞。  
第46回ピティナ・ピアノコンペティションG級全国大会入選。  
第30、39回中国ユース音楽コンクールピアノ部門最優秀賞。  
第44回広島県高等学校音楽コンクール最優秀賞。  
第3回全日本ピアノコンクール高校生の部第1位。  
第12回神戸ピアノコンクール奨励賞。

ラ・フォル・ジュルネTOKYO2025にて、フランソワ＝フレデリック・ギィ氏のマスタークラスを受講。

2025年9月Wiener Musikseminarに参加し、ヨハネス・クロップフィッチ氏のレッスンを受講。

ディヒラーコンクール第1位受賞。

これまでに、沢田菊江、黒田亜樹、赤松林太郎、小蔦寛二、小蔦花結、高島亜生の各氏に、現在江口玲氏に師事。

ソロの他、室内楽も積極的に行い、活動の場を広げている。広島女学院中学高等学校を経て、現在東京藝術大学4年在学中。



ショスタコーヴィチ（1906～1975）は、1914年に勃発した第一次世界大戦、1917年の二度にわたるロシア革命、第二次世界大戦を経験しており、それによる音楽の在り方の変化が、彼の日常、音楽作りに大きな影響を与えた。彼は、彼の時代やソビエトの人間の思想や感情を反映した音楽を創造したいと願っていた。

今回演奏する「ピアノ協奏曲第1番 作品35」は1933年に作曲された。この協奏曲の構想についてショスタコーヴィチは、「私はソビエトの作曲家である。われわれの時代は勇気と活気にみちた、この上もなく楽天的な時代だと感じている。このことを私は自分の協奏曲で伝えたいと願った。」と語る。

### 第1楽章 Allegretto

地を這いつくばり、天と地の対比を表すかのような主題を経て、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ『熱情』の主題が鮮明に引用される。性格や表情の異なる様々な場面が瞬く間に展開されてゆく。

### 第2楽章 Lento

弦楽器の奏でるワルツのリズムにのり、弱音器付きのヴァイオリンのメロディーから始まる。この楽章でも、ショスタコーヴィチ特有の、無調とまではいかなくとも調性がたえず揺れ動く主題が用いられるが、ピアノのトレモロから始まる旋律は、調性的で、情感あふれる性格を持っている。

### 第3楽章 Moderato

間奏曲風、または第4楽章への前奏曲風な性格をもつ。分散和音風の主題が少しずつ勢いを増し、行進曲風な刻みのうえにフリギア調の旋律が歌われたあと、最初のテンポに戻り再び冒頭の主題の変奏がピアノにより奏でられる。そして、ピアノのグリッサンド風の上行音階を合図に、切れ目なしに第4楽章の導入部に移る。

### 第4楽章 Allegro con brio

この曲における「シリアスな協奏曲の音楽の中にユーモアとウィットを盛り込んだ」というショスタコーヴィチの意図が、存分に発揮される楽章である。この楽章では、ハイドン、ベートーヴェン、自身の作品からの引用が、目まぐるしく展開される。ピアノとオーケストラの掛け合いにトランペットが加わり、トランペットソロにはピアノが合いの手を打ち、一気にフィナーレを迎える。

4つの楽章として書かれているが、実際には楽章間が全てattaccaで続く単一楽章の作品とみなすことができる。ショスタコーヴィチの様々な風刺や皮肉が込められたこの作品、聴き方によってそれぞれ違う印象や解釈を抱くだろう。ぜひ様々な視点からご自由にお楽しみいただきたい。ショスタコーヴィチはこの作品においてこう語っている。「私は楽しみを与えて、ひょっとしたら耳のこえた聴衆をせめて笑わせられるような、良質の気晴らしの音楽を書きたいと願った。私の作品の演奏を聴いて聴衆が笑うか、素朴にほほえんでくれたら満足である。」

本日はご来場いただき、誠にありがとうございます。今回、ショスタコーヴィチ生誕120周年という記念の年にこの作品を演奏できること、とても幸せに思います。山下一史先生をはじめ藝大フィルハーモニア管弦楽団の皆様、共演して下さるトランペットの高橋賢一郎さん、ここまでご指導くださった先生方、関わってくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。

（半田 記）

## ◆清水遥子（4年：ヴァイオリン）SHIMIZU Haruko

### バルトーク：ヴァイオリン協奏曲第2番 Sz.112（演奏時間約38分）

2005年生まれ。3歳よりヴァイオリンを始める。

4歳から木村恭子氏に師事。

第72回全日本学生音楽コンクール東京大会中学校の部入選。

第40回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール高校1年生の部第1位。

第75回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第3位。

第18回セシリア国際音楽コンクール大学生の部第1位およびセシリアIMC審査委員長賞(コンチェルト賞)。

第40回かながわ音楽コンクール一般の部第1位、横浜市ミズキーホールにて入賞記念リサイタルを開催。

第25回大阪国際音楽コンクール弦楽器部門Age-U第1位および大阪市長賞。

ドイツ・クロスターシェーンタールインターナショナルマスタークラス、フランス・ムジークアルプ夏期国際アカデミー、ACROS FUKUOKA国際音楽セミナーなどを受講。

2023年、2024年霧島国際音楽祭に奨学生として参加。

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部4年に在学中。

現在、玉井菜採、白井圭の各氏に師事。



バルトークは1881年にハンガリーで生まれ、幼い頃からピアノと作曲を学んでいた。彼が25歳のときに作曲家のコダーイ・ゾルターンと出会ったことがきっかけで、民族音楽の調査に本格的に取りかかるようになった。

今日演奏するヴァイオリン協奏曲にはハンガリーの民族的なリズムが多く取り入れられており、これは昔のハンガリーの農民の音楽がもとになっている。当時のハンガリーの農民は、言葉の数がそろった歌を踊りのリズムに合わせて歌ったり、楽器で奏でたりしていた。この歌や踊りは、祭りやお祝い事だけでなく日常の中でも親しまれていた。それらは楽譜や文字として残されることは少なく、人から人へと受け継がれていった。当時使われていたリズムは長い年月の中で少しずつ形を変え、やがてハンガリーの音楽に特徴的なものとして定着した。このリズムは、第1楽章の冒頭で登場してから全楽章を通してさまざまな箇所に現れる。その多彩な現れ方にも耳を傾けながらお聴きいただきたい。

#### 第1楽章 Allegro non troppo

弦楽器のシンプルなリズムの上で素朴なヴァイオリンのメロディが次々と展開していく。広い大地で語り部が1人で昔話をしているような場面から、次第に人々が集まって踊りだす場面が想像できる。冒頭部分のリズムが曲中に何度も登場し、独特な並びの音階や音の動きには緊張感がある。ソロとオーケストラが掛け合いながらエネルギッシュで力強いクライマックスへと向かう。

#### 第2楽章 Andante tranquillo

景色が一変し、夜明け前のような静けさの中で主題が奏でられる。主題は形を変えながら展開していき、時には湖の水面に月の光が反射してきらめいているような様子が見え、またある時は急に軽やかな風が吹き抜ける様子が印象的だ。風景が次から次へと姿を変えながら進み再び曲の冒頭部分に戻るが、曲中に変わり続けた風景が最後に冒頭の風景を忘れさせまいと言っているかのように感じ、誰もが想像できる曲の終わり方とは異なるところにも少し不気味さを感じる。

#### 第3楽章 Allegro molto

にぎやかな祭りに人々が集まり、踊り、足を踏み鳴らすようなリズムが全体を包み込む。推進力のあるエネルギッシュなメロディと、拍子の変化や不規則なリズムがとてもスリリングに感じる。曲中に第1楽章を思い出させるような旋律とリズムが多く登場し、曲全体が繋がっていることを感じさせる構成になっている。

本日はモーニング・コンサートにお越しくださりありがとうございます。私が1番好きなバルトークの協奏曲を演奏できてとても嬉しいです。指揮の山下一史先生、藝大フィルハーモニア管弦楽団の皆さま、いつもご指導くださる先生方、演奏会の運営にご尽力くださった皆さまに心より感謝申し上げます。

（清水 記）



©ai ueda

1977年桐朋学園高校音楽科に入学。チェロを井上頼豊氏に、指揮を尾高忠明、小澤征爾、秋山和慶、森正の各氏に師事。1984年桐朋学園大学を卒業後、ベルリン芸術大学に留学。1986年ニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。1985年12月からカラヤンが亡くなる1989年まで彼のアシスタントを務めた。1986年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会で、急病のカラヤンの代役として急遽ジーンズ姿のまま「第九」を指揮し、話題となる。以来、ザルツブルク・フィングステン音楽祭でカラヤンのスタンバイ指揮者として契約。その後、ヘルシンボリ交響楽団（スウェーデン）の首席客演指揮者を務めた。日本国内では1988年にNHK交響楽団を指揮してデビュー。オーケストラ・アンサンブル金沢プリンスパル・ゲスト・コンダクター、九州交響楽団常任指揮者、大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団常任指揮者、仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者、同団正指揮者を歴任。また、東京藝術大学音楽学部指揮科教授として後進の育成にも心血を注ぐ。千葉交響楽団音楽監督、愛知室内オーケストラ音楽監督、大阪交響楽団常任指揮者。大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団名誉指揮者。

## 管弦楽：藝大フィルハーモニア管弦楽団 The Geidai Philharmonia Orchestra, Tokyo

藝大フィルハーモニア管弦楽団（2016年秋、「藝大フィルハーモニア」から改称）は東京藝術大学に所属するプロフェッショナル・オーケストラで、定期演奏会のほか、声楽科との「合唱定期」、オペラ専攻との「オペラ定期」、音楽学部の「新卒業生紹介演奏会」、年末恒例の「チャリティーコンサート メサイア」（朝日新聞厚生文化事業団・朝日新聞社主催）、「台東第九公演」などを行なっている。教育面では、器楽科・声楽科学生との協奏曲等の共演および作曲科学生の作品披露を行う「モーニング・コンサート」（年13回）や、指揮科学生との演奏会・試験・演習、東京藝大ジュニア・アカデミーの生徒との協奏曲の共演などを通して、学生の演奏経験の拡充に資している。学外での活動も積極的に行っており、近年では、新国立劇場での「世界若手オペラ歌手ガラコンサート」や現代舞踊名作劇場（現代舞踊協会）の出演をはじめ、長崎県五島市、新潟県長岡市、新潟県魚沼市、秋田県秋田市、茨城県取手市でも公演を行い、いずれも好評を博した。海外では、2017年6月のチリでの4公演（日本・チリ修好120周年記念）に続き、2023年12月には、世界三大劇場の一つであるアルゼンチンのコロソ劇場（Teatro Colón）からの招聘による公演で聴衆を魅了し、15分以上に及ぶスタンディングオベーションを受けた。また2024年12月には、ヴァイオリンの巨匠ジェラルド・ブーレ氏と共に、ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲のCD録音を実施した。（公社）日本オーケストラ連盟準会員。



ソロ・コンサートマスター  
植村 太郎

コンサートマスター  
澤 亜樹  
對馬 佳祐 ◎

### 第1ヴァイオリン

荒井 友美  
生田 絵美  
加藤えりな  
金子 芳子  
河野由里恵  
佐原 敦子  
菅谷 早葉  
西田 史朗  
前田 奈緒  
増尾 朗子  
大澤理菜子 \*  
田中 李々 \*  
舟山 奏 \*  
倉沢 茉紘 ◆

### 第2ヴァイオリン

村津 瑠紀 ○  
山本 有紗 ○  
清岡 優子  
小暮 莉加  
小杉 結  
野田 良子  
福井 彩花  
福岡 雄也  
マヤ・フレザー  
宮本 有里  
竹原 奈津 \*  
辻本 雲母 \*  
吉成とも子 \*  
吉田 紫花 ◆

### ヴィオラ

安藤 裕子 ○  
吉田 篤 ○  
阿部 哲  
梶岡 弥生  
中川玲美子  
麻柄明日香  
森 朱理  
高山 愛 \*  
田口 夕莉 \*  
牧 夏子 \*

### チェロ

羽川 真介 ○  
山澤 慧 ○  
寺井 創  
豊田 庄吾  
夏秋 裕一  
松本 卓以  
城戸 春子 \*  
豊原さやか \*  
山岡 真弓 \*

### コントラバス

赤池 光治 ○  
長坂 美玖 ○  
倉持 敦  
小室 昌広 \*  
小坪 直央 \*  
宮坂 典幸 \*

### フルート

細川 愛梨  
山本 葵  
古賀 愛未 ◆

### オーボエ

戸田 智子  
山田 涼子  
菅原 郁弥 ◆

### クラリネット

濱崎 由紀  
春田 傑  
安藤友香理 \*  
西川 智也 \*

### ファゴット

坪井 祐樹  
宮崎 寿理  
北山木乃香 ◆

◎：コンサートマスター

（本公演）

○：首席奏者

\*：賛助出演

◆：本学学生

### ホルン

谷 ひな子 ○  
岡村 陽  
堂山 敦史  
梁川 笑里

### トランペット

平山あかり  
星野 朱音

### トロンボーン

東川 暁洋  
久保田和弥  
伊藤 雄太 \*

### ティンパニ&パーカッション

井手上 達  
ニツ木千由紀  
山内創一郎 \*  
宮垣 輝希 ◆

### チェレスタ

小椋 由理 \*

### ハープ

加美山 舞 ◆

### 楽団長

福中 冬子

### 事務局長

酒井 敦

### 事務局次長

小宮山雄太（チーフ・ステージマネージャー）  
小久保綾子（チーフ・ライブラリアン）

### インスペクター

葛谷 拓摩

### ステージマネージャー

森本 直通

### アシスタント・ステージマネージャー

徳永 芽久

### ステージスタッフ

神山 巧弥

### ライブラリースタッフ

安田 沙織  
廣田 碧  
小林 世佳

### 演奏活動強化担当

足立 優司

### 庶務

野村 智行  
松井 勝幸

発行：2026年5月28日(木) 東京藝術大学

編集：東京藝術大学音楽学部

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

お問い合わせ：東京藝術大学演奏芸術センター

TEL 050-5525-2300

※無断転載・複写・引用などを禁じます